

第16回河川整備計画策定専門家委員会における意見等について

【築地川及び汐留川】

整理番号	ご意見・ご提案（要旨）	回答（案）
1	環境保全については、浜離宮恩賜庭園の管理者である建設局公園緑地部とも連携して進めること。	公園緑地部と今後も連携して環境保全に取り組みます。
2	東日本大震災の際には多くの水門が地震や津波によって破壊されている。築地川水門や汐留川水門の耐震対策はどのような考え方で計画されているのか。	築地川水門と汐留川水門は港湾局管理となりますが、東京都では、国が定めた基準や元禄関東地震及び東京湾北部地震を用いて防潮堤等の施設の耐震計画を進めており、当施設については対策が完了しています。
3	高潮について、高潮浸水想定区域との考え方の違いは何か。	河川整備計画は計画規模の高潮を想定しており、高潮浸水想定区域は想定最大規模の高潮と同時に計画規模の洪水が発生することを想定したものです。
4	ヘドロについて、他の自治体では浚渫ではなく、分解する装置を設置して対策を行っている。そういった事例を参考にすると良い。	ヘドロ対策について、頂いたご意見を参考とさせていただきます。
5	汐留川での耐震対策実施については、築地川と同様に浜離宮の護岸に配慮した修景を計画すべき。	今後、汐留川でも耐震対策を実施する場合には、併せて景観に配慮した修景を計画していきます。
6	気候変動による海面上昇への対応について、本文に記載すべきではないのか。	現在検討しています「気候変動を踏まえた河川施設のあり方検討委員会」での結果を踏まえて、今後河川整備計画に反映していきます。
7	生態系の維持について、夏場は水温が上がると水中の酸素が少なくなり、エイ等に影響が出ることがある。そういったことも踏まえて、環境保全に取り組んでもらいたい。	いただいたご意見を踏まえ、環境保全に取り組みます。
8	河川整備計画本文の図で凡例の追記等行い、分かりやすくすること。	いただいたご意見を踏まえ、修正します。
9	水質（COD）がH26年度辺りから急激に改善している理由は何か。	改善理由については、下水道の放流先を汐留川から東京湾へ変更したことによるものと考えています。
10	築地川の管理用通路については、河川区域以外で整備する部分が大半であるが、そこについて「整備を進める」と河川整備計画の中で記載して良いのか。	築地地区まちづくり事業と今後連携して進めていく区間があるため、河川整備計画でも記載しています。

【神田川流域】

整理番号	ご意見・ご提案（要旨）	回答（案）
1	<p>下水部署と河川部署が同じ整備水準での整備を進めているが、整備状況にはばらつきがある。下水道と河川が連携をすることが重要であり、浸水被害の原因が内水か外水かの検証や施設の稼働状況はどうであったか等、下水部署と河川部署で意見交換を行う必要がある。</p> <p>現在下水道は合流式ということから、一定以上の雨が降ると汚物が河川へ流入するが、この状況を改善していくことが必要である。</p> <p>今までは総合治水であったが、これからは流域治水の観点が重要だと考えている。</p>	<p>浸水の原因については、引き続き水害統計調査等により把握に努めていきます。</p> <p>局地的集中豪雨などによる内水被害を軽減するため、調節池と一部の下水道管の直接接続、調節池と雨水貯留管の連結による相互融通など、下水道とより一層連携した取組を実施していきます。</p>
2	<p>昌平橋～水道橋の未整備区間について、事業者と連携し、景観への配慮を行っていく必要がある。</p>	<p>今後、景観面を含め、整備について関係機関と調整していきます。</p>
3	<p>地下に治水施設があることについて、知っている人が少ないと感じている。気候変動もあるので今後は一層意識してもらわなければならない。また地域インフラについて、横断的・包括的に管理する方向となっており、地域や河川の協力団体との連携を進めるためにも、施設のPRをしていくことが重要である。</p> <p>治水施設がどの程度効果を発揮したかも示していく必要がある。</p>	<p>現在、HPでVRや動画を用いて地下施設も含めた河川施設を紹介する取組を進めているとともに、環状七号線地下調節池の体験ツアーを実施するなどPRを行っています。</p> <p>引き続き、河川愛護月間の取組などの広報活動を推進することにより、河川の整備等に広く理解が得られるよう努めていきます。</p>
4	<p>河川と下水道の連携が大事だと考えている。また住民への情報として、自分が住んでいる場所が合流式下水道なのか、分流式下水道なのかを周知していくことが大事と考えている。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、引き続き下水道部局等と連携をしていきます。</p>
5	<p>下水道幹線の沿川が浸水していることを踏まえて、今後は流域の問題として捉えていくことが重要だと考えている。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、引き続き下水道部局等と連携をしていきます。</p>
6	<p>外濠の「ほり」という漢字について、「濠」は史跡の場合は使用しないため、「堀」を用いること。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、修正します。</p>
7	<p>外堀の石垣の箇所も防潮堤を作る計画となっているが、石垣の前面に防潮堤を作るのか。</p>	<p>石垣のある箇所については、景観に配慮した整備を検討していきます。</p>

8	変更前と変更後の流量配分図の本川の流量が変わっていないのはなぜか。	変更前後ともに、1時間あたり50mm規模の降雨による計画高水流量に対応する河道整備を行います。
9	日本橋川について、川の下に地下鉄が通っているの で、L2対応の防潮堤整備を行う際には、川底を確認しておく必要がある。	L2対応の耐震対策の際には、河床下にある工作物について確認します。
10	長期的には、日本橋川について水辺が見えるように、現在の背の高い防潮堤が必要かどうかは議論が必要である。	いただいた意見は、今後の河川整備の参考とさせていただきます。
11	年超過確率1/20の規模の降雨が1時間あたり75mm以上とのことであるが、推計する際に使用したデータが平成22年までのものとなっている。雨の降り方も変わってきているため、最近のデータも考慮すべきではないか。	国の検討では、統計解析への気候変動の影響を低減するため、平成22年以降の雨は解析から除くとされています。 現在検討しています「気候変動を踏まえた河川施設のあり方検討委員会」での結果を踏まえて、今後河川整備計画に反映します。
12	歴史的建築物を示す図について、「日本橋川周辺の」と追記した方が良くとともに、赤字箇所を見やすくした方が良い。	いただいたご意見を踏まえ、修正します。
13	パブリックコメントへの回答案については、誤解のないように表現を精査した方が良い。	回答案について精査します。